

商品調達方針(コーヒー豆)

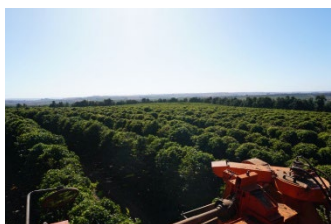
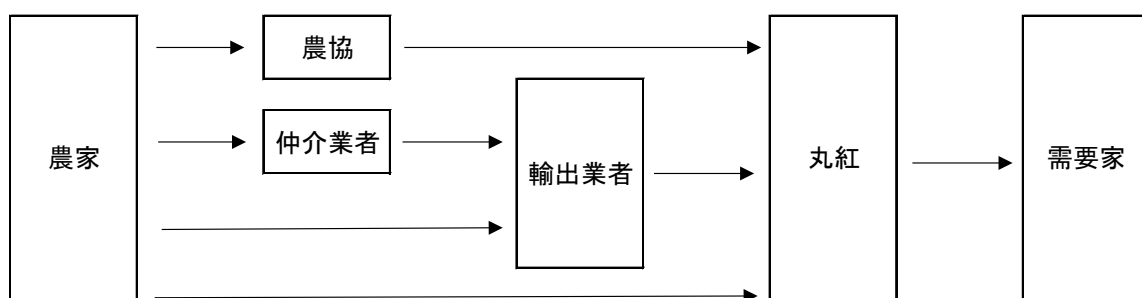
現状認識とマテリアリティ

コーヒーの需要は年々伸びており、世界中で最も親しまれている飲料の一つです。一方で、サステナビリティの観点からコーヒー豆の生産は、環境、社会、地域経済に大きな影響を及ぼします。発展途上国を中心とした小規模農園が主に生産を担っており、農園における、強制労働や児童労働、森林伐採、水や環境へ与える影響等の問題があります。また、スモールホルダーと言われる、小規模農園の収入は国際相場に常に晒されており、収入が不安定であるという現状もあります。さらに、地球温暖化がもたらす気候変化等の要因により、アラビカ種の産地は 2050 年には半減するという調査結果もあり、気候変動対策や、気候シナリオに基づいた産地ポートフォリオの構築が重要となっています。



丸紅グループは、コーヒーの加工製造事業からトレーディングまで幅広いビジネスを行う総合商社として、また国内輸入シェア 3 割を占める主要サプライヤーとして、コーヒー生産に関するサプライチェーン全体を、よりサステナブルなものとしていく使命があると考えています。

<コーヒー豆トレーディングのサプライチェーン>



上記を踏まえ、丸紅グループは、[サプライチェーンにおけるサステナビリティ基本方針](#)に沿い、コーヒーのサステナブル調達方針を定め、持続可能なコーヒー豆調達の実現を目指します。また、丸紅グループの気候変動長期ビジョンに沿い、サプライチェーンにおける環境負荷の可視化や環境負荷低減、TCFD 提言に基づいた気候変動に関わる機会・リスク分析と対応を実施します。

【調達方針】

丸紅グループは、グループのコーヒー豆調達に関する方針を以下の通りとします。

● 基本方針

丸紅グループは、以下「7つの原則(※)」を遵守したサプライヤーからのコーヒー豆の調達を基本方針とし、取引実施前に、書面での確認を取得しております。また、順守状況に関する確認を定期的実施します。

(※)「7つの原則」

- ① 法令遵守：生産国及び取引に係る諸国の関連法令の遵守
- ② 人権尊重：児童・強制労働、差別、非人道的な扱いの禁止、従業員の適正な労働環境整備
- ③ 環境保全：自然環境の保護、環境汚染の防止、生物多様性の保全
- ④ 品質管理：求める品質を理解して、品質向上に努めること。
- ⑤ 安全安心：適正な残留農薬基準の運用、工場における適切な生産管理
- ⑥ 公正取引：値決・買付の透明性の確保、贈収賄の禁止
- ⑦ 社会貢献：持続可能な生産活動の維持(生産性向上・雇用創出・生活支援)

基本方針	
7つの原則	100%のサプライヤーに書面での遵守確認を取得

● サステナブルコーヒー調達方針

丸紅グループは、上記の基本方針を遵守し、以下 1. もしくは 2. どちらかの条件を満たす「サステナブルコーヒー」の調達を拡大することで、サステナブルなサプライチェーンの構築を目指します。

<丸紅グループが考えるサステナブルコーヒー>

1. 産地・農園への支援
<ul style="list-style-type: none"> ・ コーヒー豆の生産は、発展途上国を中心とした小規模農園が担っていますが、小規模農園の収入は国際相場に常に晒されており、不安定であり、農園における強制労働や児童労働が起こる要因の一つとなり得ます。また、国際認証を取得する費用や手間が、ボトルネックとなっている小規模農園は多くあります。 ・ 丸紅グループは、「誰も取り残さない」というSDGsの精神に基づき、特にスモールホルダーである小規模農園をサプライチェーンに組み入れることの重要性を認識しています。そこで、顧客、サプライヤー、グループ会社等のサプライチェーン上の各ステークホルダーと協働し、小規模農園を中心とした産地への品質・生産指導、営農支援、産地コミュニティ支援を行ない、生産された豆を適正価格で調達することで、産地で働く人々の所得や生活向上に寄与しつつ、高品質な豆を安定的に調達する、サステナブルなサプライチェーンを構築します。また、各産地の課題に沿った支援策を実施していきます。
2. 認証取得コーヒーの取扱い促進
<ul style="list-style-type: none"> ・ RFA、4Cなどの国際認証取得品の取扱いを増やしていくことで、産地における環境保全を支援します。

【目標】

1. 丸紅グループが実施するコーヒー豆トレードの取扱い生豆をサステナブルコーヒーへシフトとすべく、小規模農園を中心とした産地へ支援が行き渡る買付スキームを構築します。
2. インスタントコーヒー製造事業においては、再生可能エネルギー使用率を2025年3月期までに50%以上とします。また、グループの[気候変動長期ビジョン](#)に従い、2050年GHG排出ネットゼロを目指します。

【参考】	FY2021	FY2024
インスタントコーヒー 製造容量(トン)	23,000	39,000

以上